

第4回 青森市総合計画審議会 第1分科会 議事要旨

- 【日 時】 令和6年4月25日（木） 13：30～15：30
- 【場 所】 アップルパレス青森 2階 錦の間
- 【出席者】 竹内 紀人 分科会会長、石岡 有佳子 委員、佐藤 健一 委員、  
森 庸 委員 計4名
- 【欠席者】 福士 修身 委員 計1名
- 【オブザーバー・傍聴者等】 なし
- 【関係部局】 金谷企画部長、横内経済部長、大久保農林水産部長、舘山浪岡振興部長  
計4名
- 【事務局】 太田企画部次長、小野企画調整課主査、沼田企画調整課主事 計3名
- 【配付資料】

- ・次第
- ・分科会の各資料について
- ・分科会で審議いただきたい内容について
- ・各政策における「基本方向」、「現状と課題」、「主な取組」一覧表

【会議概要】

○事務局から、今後の主なスケジュールを報告した後、資料の見方について説明し、各委員が意見を出し合った。

○審議、質疑応答の概要

「政策1 活力ある地域産業の育成」について

（委員）

- ・「人口減少に伴う域内需要の縮小」が課題となっているが、これに対してどのような取組があるのか。一般的に人口が減少していくと、物品販売も建設事業も全て縮小していく。そのことに対する取組が見えにくいのが、必要なのは域外からの金。外から来た人に金を落としてもらわないといけない。
- ・人口が減少していくと働き手が少なくなるが、女性は結婚、出産、子育てを機に職場でも家庭でも負担が大きくなる。勤務時間や昇給・昇格等に配慮した取組がないと女性のエンパワーメントは難しい。

（委員）

- ・農家は担い手不足のため、法人化しないと生き残れない事態になっている。ただ、法人化するメリットが農家に伝わっていないのではないか。

（委員）

- ・学び直しは、「あおもりコンピュータ・カレッジ」だけではなく大学でもできる。社会人大学院生のように。

(委員)

- ・この取組の中で優先順位はあるのか。1年目はここまで、2年目はここまでという具体的なものが必要なのではないか。

#### 「政策2 時代の変化を先取りした産業振興」について

(委員)

- ・「DXの推進」とあるが、なぜ青森の人はDXに取り組めていないのか。そういった人にとってどのような支援ができるのだろうか。
- ・これらの取組全般に言えることだが、基準が見えない。どのくらいやれば達成できたと言えるのか。

(事務局)

- ・次回の第5回分科会で審議いただくことになるが、各施策に最低1つの「目標とする指標」の設定を考えている。

(委員)

- ・人口減少の中でも新たなサービス産業はあり得る。例えば洋上風力。基地港湾に指定されると様々な需要が生まれるが、製造業やその下請け・孫請けのための窓口紹介サービスのようなのがあってもいいのではないか。

(委員)

- ・「大学等と連携した起業マインドの涵養」とあるが、起業マインドの涵養だけで終わるのではなく、きちんと目標を設定することでフィードバックもできるのではないか。

#### 「政策3 地域の特性を活かした市場開拓」について

(委員)

- ・SNSも多様化しており、ターゲットに合わせた使い方をしないと効果が出ないことが実証されている。ターゲットをきちんと定める必要がある。
- ・「市産農水産物のブランド力向上」とあるが、ブランド数は増やしていったほうがいいのか、または今あるブランド価値をさらに高めていったほうがいいのか。

(委員)

- ・多くのクルーズ船が寄港しても、船内の食事に市の食材は全く使われていない。食材はまとめてどこかで仕入れているはずである。その市場を開拓してはどうか。

(委員)

- ・物産展や商談会にはこれまでも出店してきた。その場では売れるかもしれないが、それだ

けでは商売にはならない。SNSなどを活用した情報発信が非常に大事になってくる。

(委員)

- ・ブランド力を向上させることも大事だが、相手のニーズを調査することも大事。

#### 「政策4 国内外の観光需要の取り込み」について

(委員)

- ・クルーズ船の客に金を落としてもらうためには、「ランドオペレーション」が効果的であり、その取組を強く進める。また、これからは多少高額であってもプレミアムな対応をする「ランドオペレーション」があってもいいだろう。
- ・クレジットカードが使えずに帰ってしまうクルーズ船の客もいる。これでは、いくら津軽塗の商品を買ってもらいたくても売れるわけがない。

(委員)

- ・クルーズ船の客には目的がある。春は桜、夏はねぶた。ただ、それらには行かず、ゆっくり過ごしたいと思っている人もいるはずである。その人たちの市内での回遊を促していかなければならない。クルーズ船の経済効果は客にいくら使ってもらうかである。
- ・「ランドオペレーター」で言えば、例えば、三内丸山を含む北海道・北東北の縄文遺跡群の世界遺産もそうだが、これまで名物だった無料のボランティアガイドでは、本気で世界遺産の知識を得たいと考えている人には物足りないかもしれない。

(委員)

- ・美術館にもボランティアガイドはいる。ただやはり、プレミアムな体験を望む人は、学芸員の資格がある人を求める傾向にあった。

(委員)

- ・「のつけ井」は結構良い線をしていると思う。ただ問題は、プレミアム感をどのように伝えていくか。

(委員)

- ・普通の暮らしの感覚では、100万円のねぶたの棧敷席に座る人を見て所得格差を実感することはある。一方で、それが当たり前の時代になっている。

(委員)

- ・ホテルでの接客の質は他と比べるとあまり高くないという話を聞くが、実際はどうか。

(委員)

- ・質は最近かなり落ちていると感じる。宴会や会食をするとよく分かる。

(委員)

- ・スタッフ教育の部分もあるかもしれないが、根本にあるのは人手不足。

(委員)

- ・生活していて感じるのは、タクシー業界やホテル業界の人手不足である。

(委員)

- ・ナイトライフをどう考えるか。観光資源として桜、ねぶた、八甲田スキーなどあるが、それぞれ普通に飲んで楽しめる時間があまりにも短い。

(委員)

- ・ミュージックバーやスポーツバーなど、夜間でも人が集まる空間があれば面白い。

(委員)

- ・市内の寺で寺社泊はできないだろうか。インバウンドを考えたときに、ニューツーリズム的なものへの環境整備も必要なのではないか。

#### 「政策5 連携や交流による地域活力の強化」について

(委員)

- ・自由な働き方ができるからといって、そこにいきなり定住するわけではない。定住ではなく、まずは一時的に拠点を構えていただくことを促していかなければならない。

(委員)

- ・二地域居住ができる人は世の中にたくさんいる。そういう人たちが将来の移住者となるならそれは素晴らしいこと。一方で、二地域居住のままでもいいと思う。青森にメインの拠点を持たなくても、青森に通い、青森に力を貸してくれればそれでいい。関係人口の発想で捉えるべきだと思う。

(委員)

- ・関係人口のデータベースを作ってはどうか。

(委員)

- ・人口減少が市の産業に直結することは明らか。その足りない手をどこから借りてくるのか。それには関係人口のデータベースがあるといい。それはまだ夢の話ですが。

(委員)

- 学校の先生からも、子どもたちが何かをやりたいと言ったときに、誰を紹介したらいいのかわからないと言われた。周りにこういう人たちがいるということが分かるデータベースはあった方がいい。

(委員)

- 広域連携で悩ましいのは、スタートアップセンターも含めて、実質的に青森市が東津軽郡4町村をリードしていかななくてはならないところ。地形的にも文化・歴史的にも一体である東津軽郡へのケアというのも、ぜひ進めていただきたい。

○今日の意見の取扱等の事務連絡を行い解散。